

第5回の今月号では、インプラント治療のメリットに加え、治療のメリットを「最大化」するコツをお話したい。

すでに本稿では、歯を失った際の高度歯科治療法の一つであるインプラントと、他のいくつかの治療法との比較を説明してきた。だが、話を前に進める前に、これからインプラント治療をチョイスする、あるいは検討される皆さんには、一つだけ注意をいただきたい点がある。

それは、インプラントも万能ではない、という事。

もちろん、他の治療法に比し、インプラント治療はその最大の目的である「噛む力の回復」に、現在最も効果的な治療法であることは論を俟たない。だが、インプラント治療をされた患者さんの中には、インプ

十 未病の憂い

歯科医が語る現代版養生訓

ラント（構造物）が「道具」であることを忘れ、あたかも自身の天然の歯を取り戻したかのような生活を送られ、インプラントの「リスク」を徒に増大させてしまう方が現実におられる。

インプラントも「道具」と言ったのは、道具である以上「メンテナンス」が不十分では、機能しないばかりか、新たな疾患を抱え込むこともゼロではないということだ。

ではメンテナンスとは何か？ 難しいことではなく、ご自身の天

インプラントの「メリット」の最大化

インプラントの「メリット」③

然の歯と同様に、毎日の歯磨きを怠らず、さらにできるだけ長くインプラントで噛む力を維持していただけるよう、歯科医の指示通りインプラントの定期検診や口腔ケアを頑張っていたら、インプラントの寿命を延ばしていただくことに他ならない。

インプラントをすればそれで終わりとは決して考えないで欲しい。インプラント技術は年々進化しており、天然の歯を取り戻したかのような錯覚を一部の患者さんが抱かれても不思議ではないほど、口腔や歯の機能回復は進む。

インプラントにも寿命がある、というお話は、次号で詳細にご説明するが、インプラント部位のケア・メンテナンスが不十分だと、せっかく埋入した部分の骨が壊れる、インプラント歯周炎など、やっかいな新たな疾患を抱え込むことになり、噛む力の回復は、遠のいてしまうことを忘れては欲しくない。本稿をお読みの読者の中で、インプラント治療を受け、インプラントを施した部位に違

和感や出血などを抱えている方は、すぐに歯科医の元を訪ねて欲しい。

現状、不具合がない方も、自然歯と同等、いやそれ以上の「口腔への意識」を持続的に持っていたら、それが必ず人生のQOLを上げる。

定期的に歯科を受診することは、インプラントの機能を維持するための「最低限」のケアである。毎日のブラッシングで、自ら「口腔や歯の異常」に気付けるような健康チェックができるようになれば理想的だ。

インプラントのメリットを最大限引き出せるのは、歯科医ではなく、患者さん自身の向き合い方だ。次号では、インプラントにも寿命がある、という点について、本稿で述べられなかった、インプラントの寿命を伸ばす具体的なケアの方法などについてもお話したい。

顎関節症
ドライマウス
舌痛症

長栄歯科クリニック
亀井 英志
Kamei Hideshi

ストレスは見える！
すべては「噛みしめ」が原因だった

気がつくとも「歯を食いしばっている。…」心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書『すべては「噛みしめ」が原因だった』をお読みいただきたい。「未病」の原因をまとめた良書です。

亀井英志(かめいひでし)

1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。

